



国際

沿岸レポート

第3回 日韓沿岸技術研究 ワークショップ (The 3rd KIOST-PARI-CDIT-WAVE Joint Workshop)

一般財団法人沿岸技術研究センター
調査部 研究員 田中 真史

1. はじめに

韓国海洋科学技術院(KIOST)、国立研究開発法人港湾空港技術研究所(PARI)、一般財団法人みなと総合研究財団(WAVE)および沿岸技術研究センター(CDIT)は、年1回の合同ワークショップを通じて、沿岸防災、沿岸域管理および沿岸環境等の分野において、技術交流を行っています。第3回となる今年は、韓国の安山にあるKIOSTの研究施設で開催され、日本からは総勢13名が訪れました。10月5日から7日までの3日間、ワークショップの他、京仁運河(Ara-Waterway)、始華(Sihwa)潮力発電所および仁川(Incheon)新港の視察を行いました。

2. ワークショップ

ワークショップはKIOSTの研究施設内の講堂において開催され、日本の訪問団を除いても60~70名程は聴講していたようでした。テーマは、1) Coastal Disaster and Response、2) Coastal Management、3) Coastal Environment、4) Technical Developmentの4つに分類され、3編ずつ計12編の講演がありました。例えば、2) Coastal Management のセッションでは、気候変動に対する汀線変動予測とリスク評価に関する発表、また、4) Technical Development のセッションでは、無人水中建設ロボットの開発について、課題は多いものの、実現に向けた一つ一つの取り組みに関する発表等がありました。一日を通じて、参加者は大変関心を持って聴講していた様子で、用意された質疑応答の時間が不足するくらい活発な討議が行われました。

テーマごとの個別の講演の他にも、沿岸防災技術研究所の高山所長が特別講演の依頼を受け、For Resilient Structures against Tsunami -Lessons Learnt from the Great Earthquake Disaster in 2011- (津波に対して粘り強い構造のために ~ 2011年東日本大震災の教訓~)と題して講演しました(写真1)。津波の観測結果、津波伝播計算、被災状況とメカニズム、設計の



写真1 沿岸防災技術研究所の高山所長による特別講演

考え方および関連の研究例等、内容は広範に亘り、かつ最新の知見が取り込まれたものでした。皆さん熱心に聴き入っており、特に韓国の研究者からは多くの質問がありました。

3. 仁川周辺の水域施設の視察

期間中、KIOST名誉研究委員 安熙道(アン・ヒド)博士のご案内で、仁川周辺の代表的な水域施設として、京仁運河(写真2)、始華潮力発電所および仁川新港の視察を行いました。その中で特に印象深かったのは、始華潮力発電所でした。この潮力発電事業は、当初、発電は計画されておらず干拓地および農・工業用水を確保するための淡水化事業だったそうです。ところが、閉め切り後に急激な水質悪化が確認されたようで、KIOSTの前身であるKORDI (韓国海洋研究院)の提案により、この閉め切り堤が潮力発電と海水循環を担う施設として維持されました。まさに「ピンチをチャンスに」ですが、これを大規模なプロジェクトにおいて実践したところに驚きました。その他にもいくつか視察させて頂きましたが、参加者は皆それぞれに関心を持って見学されていたようでした。



写真2 京仁運河視察の様子

4. おわりに

安博士はじめKIOSTの職員の方々には、準備を含めて期間中大変お世話になりました。お陰様で有意義なワークショップになったことはもちろんですが、沿岸域の研究開発に携わる日韓の技術者交流が友好的かつ着実に進められていることを改めて実感した訪韓となりました。厚く御礼申し上げます。また、PARIの下迫特別研究官並びにWAVEの細川理事には大変お世話になりました。ここに記し、謝意を表します。